

基本語力を鍛える

英語の前置詞

田中茂範(著)

はじめに

英語は「前置詞」言語です。日本語ではテニヲハを使うのに対して、英語はさまざまな意味関係を表すのに前置詞を使います。例えば「箱の上のリンゴ」は an apple on the box となり、「山を越えようとしている飛行機」は a plane over the mountain となり、「赤いドレスの女性」は a woman in a red dress となります。ここでの on や over や in が前置詞です。日本語では「箱の中の」のように「リンゴ」の後ろに置かれていますが、英語では、over the mountain のように the mountain の前に over が置かれています。だから、「前置詞」という呼び方をするので。日本語のテニヲハは、「箱の上に」のように「の上に」は「箱」の後に来るため「後置詞」と呼ばれることがあります。

前置詞を使いこなせる力を身に付けることが英語学習では必須です。日本人学習者にとって苦手なのが前置詞ですが、幸い、その数は限られています。しかも、その数はこれから増えることもないでしょう。そこで、前置詞を体系的に学んでおくと、英語力は一気にアップするはずですよ。

ここで紹介するのは、英語を自分のものにするために欠かせない 21 の前置詞です。これに 6 つの空間副詞を加えます。これらを合わせて「空間詞（空間的な意味合いを表す詞）」と呼ぶことができますが、ここでは、みなさんが慣れ親しんでいる「前置詞」や「副詞」という言い方をします。

21 の前置詞：

in	on	at		
to	for	from		
through	along	across		
by	about	around	between	
over	under	above	below	beyond
with	against	of		

6 の空間副詞：

up	down
off	away
out	back

前置詞のひとつを取り上げ、辞書を引くと、たくさんの異なる「意味」が載っています。前置詞がむずかしいと思われる主な理由は、その意味の多様性にあります。しかし、本書で提案するのは、「1 つの前置詞には 1 つの共通の意味がある」というものです。共通の意味のことを「コア」と呼びます。前置詞の場合は、それぞれの前置詞のコアはイメージで捉えることができます。辞書に載っているたくさんの「意味」は、前置詞本来の意味というより、前置詞が使われる状況を表しているものと考えられます。本書での主張は一言でいえば以下になります。

辞書ではたくさんの意味が前置詞に与えられているが

前置詞の本来の意味は 1 つである。

コアを押さえ、それをさまざまな状況に応用できるようになれば

前置詞力は身に付くはずだ。

本書では、個々の前置詞や空間副詞のコアを説明し、さまざまな用例の背後に共通のコアがあることを示します。巻末には、前置詞や空間副詞の理解を確認するためのエクササイズを準備しております。

なお、コアという考え方は筆者が、1980 年代の中頃、はじめて提案し、以降、多くの英語教育関係者が「イメージで学ぶ」ということを旗印に応用しているものです。なお、筆者がコロンビア大学に提出した博士論文も前置詞研究でした。以降、30 年以上に亘り、英語前置詞と向き合っています。認知言語学の代表的な研究者の John Taylor 氏ともシンポジウムを行いました。最近では、コア理論に基づく前置詞指導の考え方は、TESOL Encyclopedia of English Language Teaching (2018, Wiley) や

『認知言語学大事典』（2019, 朝倉書店）でも紹介しています。筆者は、これまで数々の前置詞に関する本を書いてきました。NHK の語学番組でもコアの考え方に基づいた講座を担当しました。この小さな本は、これまでの活動で得たエッセンスを詰め込んだ決定版だと思っています。それぞれの前置詞と副詞の世界を存分に味わい、使い分け、使い切ることができる力を身に付けてください。

重要な前置詞については動画解説があります。QRコードを付けていますので、必要に応じて参考にしてください。また、いくつかの用例には動画があります。QRコードをスキャンして利用してください。

さあ、はじめましょう！

田中茂範
PEN 言語教育サービス代表
慶應義塾大学名誉教授

Table of Contents

INの世界.....	5
ONの世界.....	10
ATの世界.....	14
TOの世界.....	17
FORの世界.....	22
FROMの世界.....	23
THROUGHの世界.....	28
ACROSSの世界.....	30
ALONGの世界.....	33
AROUNDの世界.....	35
ABOUTの世界.....	38
BYの世界.....	40
BETWEENの世界.....	43
OVERの世界.....	44
UNDERの世界.....	46
ABOVEの世界.....	49
BEYONDの世界.....	51
BELOWの世界.....	53
WITHの世界.....	54
OFの世界.....	57
AGAINSTの世界.....	59
空間副詞.....	61
UPの世界.....	61
DOWNの世界.....	62
OUTの世界.....	63
OFFとAWAYの世界.....	64
BACKの世界.....	66
いろいろな意味関係を表す前置詞.....	68
前置詞・空間副詞のエクササイズ.....	70

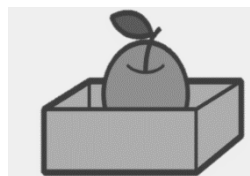
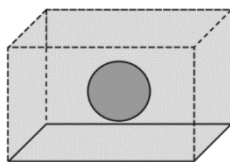
IN の世界

in といえば「～の中に」が連想されます。しかし、英語の in と日本語の「中に」では、使い方が異なります。「太陽が昇る」という状況の表現を英語と日本語で比較してみましょう。

「太陽が東から昇る」 ⇒ The sun rises **in** the east
「東から昇る」 ⇒ ×rise from the east ○rise **in** the east

日本語では「から」を使うのに対して、英語では in を使っています。後で説明するように、同じ事象でも捉え方が違うのです。

in のコアは何かといえば、下の左側の図のように「空間内に」と表現することができます。



「空間」といえば、典型的には「入れ物」です。3次元の空間です。そこで、上の右側のイラストのように「箱の中にリンゴがある」状況は an apple **in** the box となります。the cookies **in** the can（缶のクッキー）、the computer **in** the office（オフィスのパソコン）、stamps **in** the top drawer（一番上の引き出しの切手）などすべて入れ物の中に何かがあるという状況です。

いろいろな「空間内」の捉え方

a woman **in** a gorgeous dress といえば、どうでしょうか。「ゴージャスなドレスに包まれた女性」ということです。



たとえ、一部分でも「空間内」という捉え方ができれば、in を使って、a man **in** a black hat のように表現することができます。



境界がぼやけていても、「空間に包まれている」感じがあれば、in を使います。「雨 (rain)」には、箱のような境界はありません。しかし、The man is **in** the rain. のように表現することができます。雨に包まれているという感じが **in** the rain で出てきます。「草むらのバッタ」も a grasshopper **in** the grass となり、「髪の毛にささった麦わら」も a straw **in** her hair のように in を使います。



平面に広がった空間

「空間内」といっても立体空間だけではありません。平面に広がった空間にも in を使うことができます。「公園で遊んでいる少年たち」のことを指して、The boys are playing **in** the park. と表現するのがその例です。

「絵に描かれた女性」も「絵 (平面) の中の女性」ということで a woman **in** the picture となります。「円の中の点」も同じで、a spot **in** the circle です。

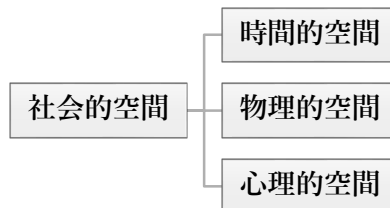


冒頭に挙げた例ですが、「太陽は東から昇って、西に沈む」という状況も The sun rises **in** the east and sets **in** the west. といいます。これも「平面の空間内」の例です。The sun rises **in** the eastは、“the sun-rising” つまり「日の出」が the east という場（平面空間）に起こる。The sun sets **in** the west.は、“the sun-setting” つまり「日の入り」が the west という場（平面空間）に起こる、ということです。



空間の拡張：比喩的な広がり

物理的な空間だけでなく、以下のように、比喩的な空間にも in は使われます。



時間空間

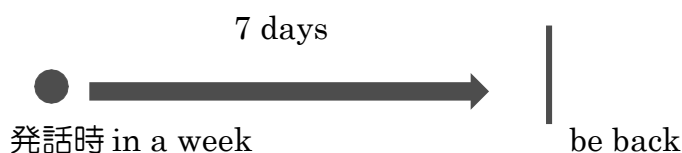
例えば、**in** 2020 といえは「2020 年に」ということですが、2020 年という時間の幅を **in** で表しています。**in** a minute は「一分という時間幅で」ということから、「時間幅が小さい」を経て「すぐに」という意味になります。**in** the morning（朝に）、**in** spring（春に）なども幅として時間を表現しています。「夜」は at night といえは、昼（day）に対しての night であり、暗闇の訪れている時間帯、**in** the night といえは、時間の流れの中での活動が連想されます。

There're seven days **in** a week. の **in** は理解しやすいですが、I'll be back

in a week. といえば「一週間したら戻ります」という意味なるのはどうしてでしょうか。以下のように考えることができます。

in a week

There're seven days **in a week.** (1 週間に 7 日ある) の **in a week** は「1 週間の内に」という意味になります。I'll be back **in a week.** だと「1 週間したら戻ってくる」という意味で、この **in a week** には from now on が前提としてはたらき、発話の時点から一週間が経過し、その経過する時間(所要時間)の長さ(時間の幅)を in で表現しています。



なお、「一週間以内」だと I'll call you within a week. と within を用います。

社会的・心理的空間

in の「空間内」というイメージは、社会的な空間にも展開します。その場合、「所属」の意味が出てきます。**in the Navy** といえば「海軍に」、**in the radical group** といえば「過激な集団に」ということですが、これらは「社会的空間内」の事例です。Jack is **in the Navy** and is stationed **in Florida.** だと「ジャックは海軍にいてフロリダ駐在している」ということです。**in Florida** は物理的な空間としての例、**in the Navy** は社会的な空間の例です。

心理的空間の代表例としては、**in love** (恋して) があります。Jack and Jill are **in love.** だ「ジャックとジルは愛し合っている」という意味合いです。この **in love** は心理的空間の典型例です。love をあたかも入れ物のように捉えるのです。だから、fall **in love** (恋する)、be **in love** (恋してい

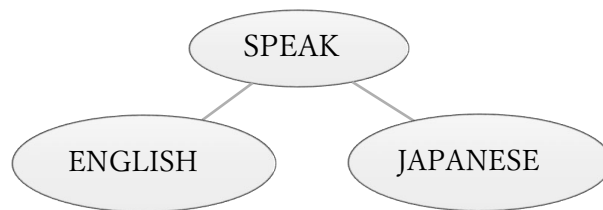
る)、そして fall out of love (失恋する) という表現が可能になるのです。「困った」状況にあるというのも心理的な空間のケースで、以下がその例です。

in trouble **in despair** **in sorrow** **in need** **in anguish**
(困って) (絶望して) (悲しみに暮れて) (困窮して) (苦悩して)

If you find yourself **in trouble**, give me a call. (もし困ったことがあれば私に電話してください) では、困り果てた状況に置かれていることを表しています。

さらなる応用

「英語で話す」というのを **speak in English** といいます。日本語的には「手段」ということですが、英語的な発想からいうと「英語という言語空間の中で」ということです。



また、**in conclusion** は「結論として」、**in reality** は「現実として」と訳されますが、**in** に注目すれば、**in conclusion** は<結論部分という空間において>、**in reality** は<現実という空間において>と解釈することができます。Spring was **in bloom**.は「春たけなわだった」という意味合いです。文字通り、「春は草花が咲き乱れる満開の中にあった」という感じですね。

このように、**in** が使われている状況では「空間内に」という意味合いがコアとして共通しているということです。

